



「探鳥会スタッフ通信」は、探鳥会の考え方や様々な運営手法について、全国の連携団体の探鳥会リーダーの皆様と情報交換を行うための通信です。

目次

- ◆Young 探鳥会が出来るまで（第3回）・・・1
- ◆ラジオ番組『野鳥が好き、歌が好き』で支部活動をPR！（石川）・・・3
- ◆長野支部の探鳥会がクマの出没により中止に・・・4
- ◆車いす探鳥会のための研修を実施しました・5
- ◆仙台で「探鳥会のためのリスクマネジメント研修」を開催・・・6
- ◆日本野鳥の会埼玉 2019 年度リーダー研修会・・・7
- ◆探鳥会保険集計結果・・・10
- （2019年7月分）
- ◆普及室からのお知らせ・・・12
 - ・新入会キャンペーン実施中。ぜひご活用ください！
 - ・秋期開催分「初心者向けバードウォッチング」を広報します
 - ・冬期開催分「初心者向けバードウォッチング」実施概要をお送りください
- ◆今月の購読者数・・・14
- ◆探鳥会スタッフ通信の無料配信について・15
- ◆編集後記・・・15

◆Young 探鳥会が出来るまで（第3回）

7月号から、Young 探鳥会の創始者である神奈川支部幹事の小松さんによる、Young 探鳥会の誕生にまつわるお話を連載しています。支部で新しいことに取り組もうとされている方には、励みになる貴重なお話だと思います。どうぞお見逃しなく！（普及室）

■若い人の為の探鳥会を提案

神奈川支部探鳥会リーダーの末席に加えていただき、指導部会の会議に出席するようになったものの、しばらくは座っているだけでした。故・浜口哲一前支部長をはじめ、ズラリと居並び重鎮の方々。私ごとき新参者など、他に何も出来ません。会議に参加しながら「ここで自分なんか一体何が出来るんだろう？」という思いが増大しました。

そこで私が辿り着いた答は「この方々と同じ事をやったんでは勝負にならない」というものでした。「私ならではの切り口を何とか見出さないと」と悩んだその時、思い出したのが参加者時代の体験。若い人が探鳥会に来にくい、という問題でした。会議に出席しながら、どんどんこの考えは私の内側で醗酵していきました。そして、ある時ついに「小松君、何か意見ある？」と、故・浜口前支部長に聞かれたのです。

「今しか無い・・・！」

私は覚悟を決め、自分の参加者時代の体験を話

し、若い人の為の探鳥会について提案しました。当然、反対意見が出ました。反対意見を大きく要約すると2つに分けられます。1つは「探鳥会は子どもから大人まで分け隔てなく、誰でも参加出来るのが信条であり、制限を設けるのはその基本姿勢にそむくから賛成出来ない」というもの。もう1つは「たとえ若手の救済でも、制限を設けた探鳥会を頻繁にやるのは、対象とされない会員の不公平感を生むため認可しかねる」というものでした。

そこで私は、絶滅が心配される鳥は他の鳥よりも優先して保護すべき、という絶滅危惧種の野鳥保護の例を出し「開催については毎月とは考えていません。3ヶ月に1回程度が妥当だと思っているので、どうか聞き届けて欲しい。お願いします！」と必死に食い下がったのです。その結果、先輩方の中に「せっかく若手がやる気を出してるのだから、無下に退けず、やらせてみてはどうだろうか？」と援護射撃して下さった方々があり、その有難い後押しのお陰で、

私の提案は無事採択されたのでした。

私は当初、自分がやるつもりでは無く、意見を言えば誰かがやってくれるだろう、自分はそれをお手伝い出来れば、という考えで言っていました。何故なら、これだけの方々がいらっしゃる訳ですから。

ところが意見が取り上げられ、ホッとしたのも束の間、では誰が実施するかという議論は予想外な方向に展開し、あれよあれよという間に、故・浜口前支部長の裁断が下り「じゃあ、若い人向けの探鳥会は、やはり若い小松君にお願いします」ということになってしまったのです。慌てたものの、最早後の祭り。言い出した上に、あれだけ食い下がった訳ですから、私も後へは引けません。結局、お引き受けすることになってしまいました。

「これは大変な事になった」呆然とする私を尻目に会議は次の段階へ。神奈川支部の規約では、リーダーは探鳥会の企画立案は出来ても、誰か幹事が入らないと実施出来ないことになっていたので。

ここで「ハイ、じゃあ私入ります」と真っ先に手を挙げて下さったのが、唐沢正貴幹事でした。誰も手が挙がらなければ企画倒れもあり得たところでした。こういうシーンで最初に手を挙げるとするのは、火中の栗を拾うに近いものがあります。唐沢幹事は優しい風貌で気さくな処も魅力ですが、実は勇気と男気を秘めた方なのだと感じました。本当に有難かった。この拳手が口火となり、上玉利浩一幹事や中島直リーダー等が担当となって下さいました。こうして私の提案は正式に認可され、実現に向け動き出したのでした。

私の内側に「Young 探鳥会」という名前すらまだ無く、そのちいさな胎動が始まった瞬間でした。

■対象会員へのアンケート実施

会議の後、私は若い人向けの探鳥会の内容の検討に入りました。元々、4つの腹案がありました。それは大体次の通りです。

- ①若い人だけを集めること
- ②参加者を分散させ探鳥させること
- ③新しい鳥合わせの考案

④参加者同士を友達にしたい

これらは全て、私の参加者時代の体験から出たものです。どうやってこれを実現させるか。まずはそこから考えていきました。

1つ目「若い人だけを集める」というのはこの企画の肝です。しかしその為には、どうしても年齢制限は外せません。しかし、ただこれを言い出したのでは、かなりの反発が予想されました。

2つ目「参加者全員が固まらず、分散して探鳥させる」というのも、今までの探鳥会のスタイルから、大きく舵を切るやり方です。これも物議を醸しそうな思いつきでした。

3つ目「新しい鳥合わせの考案」は、鳥のレア度や、種類だけ多ければ成功、では無いはずだ、という思いから、鳥が居た環境にも着目したものにしたいと考えていました。

4つ目、元々「同年代の同好の友達」が欲しくて探鳥会に行き出した私です。何とかして初めて会った参加者同士が友達になる、誘い合っただけのお手伝いをする、そんな場を演出したい、と考えていました。

おおまかな骨子は私の内側にありました。しかし私のイメージが、現実にこの探鳥会の対象となる若い方々の望みとズレていないか、確かめる必要がありました。それには対象会員へのリサーチが不可欠でした。それに、年齢制限を認めさせる為には、対象者の生の声を会議に提出する事が、一番効き目があるはずだ、と考えてもいました。

私はその時、対象となる20歳～35歳の層が支部会員中20%以上居る事を掴んでいました。その事実を元に相談すると、唐沢幹事と上玉利幹事が「それだけ居るなら、しばらくやってないからリサーチもいいかもね」と往復葉書を使ったアンケートを提案して下さい、会議で承認を取って下さったのです。今日のようにSNSが発達し、簡単にリサーチが取れる時代ではありません。往復葉書にはお金が掛かりますから、その為の予算が必要でした。アンケートは、若い人向けの探鳥会担当のスタッフ総出で発送作業をおこないました。

(次回につづく)

(日本野鳥の会神奈川支部／小松洋)

◆ラジオ番組『野鳥が好き、歌が好き』で支部活動をPR！（石川）

7月に日本野鳥の会石川でリーダー研修会を担当させていただいた折り、幹事の清田さんと名刺交換させていただきました。清田さんはローカルFMラジオ局で、バードウォッチングの番組を持ち、支部のPRもいろいろされているとか。支部がFMラジオを味方につけてバードウォッチングの普及に努めているとは！これは面白いということで、清田さんに寄稿をお願いしました。（普及室／箱田敦只）

土曜日の朝9時、ミニ・リポートの「ラビング・ユー」に乗せて「野鳥が好き歌が好き」が始まります。

『皆さん、こんにちは。私たちは可愛い野鳥が大好きです。庭、公園、川沿いに、たくさんの野鳥がいます。そんな野鳥たちを少しでも身近に感じてみませんか？素敵な音楽と、自然を愛する仲間たちのお話に耳を傾けて下さい。さて、お話が聞こえてきましたよ……』

この番組は、主に日本野鳥の会石川の会員を招いて、それぞれの野鳥に関するお話、エピソードなどをお伺いする番組です。一般の皆さんに日本野鳥の会の活動を知ってほしい、出来たら会員になってほしいという気持ちで2019年4月6日からはじまりました。お話を伺いながら、ゲストのお気に入りの音楽をかけて和やかに進めていきます。30分番組でゲストの選曲を基本3曲おかけしています。テーマについてのそれぞれのお話は実質4分ほどです。

インタビュアーは私、このラジオ局に勤務する日本野鳥の会石川幹事の清田良一、ラジオ・ネーム ロイ・キヨタです。野鳥の会の会員さんに出演を依頼すると最初は、「自信がない」とか「話すことも無い」「口下手だから」などと尻込みしながらも、自己紹介に始まり、野鳥に関心を持つようになった、いわゆる「きっかけ鳥」、「好きな鳥」、「自分のお気に入りの探鳥フィールド」、「まだ見ぬ憧れの野鳥」と話が進んでいくと皆さんの「野鳥ワールド」が全開となります。口も滑らかに回り始め、いつもの探鳥会モードに。思わず吹き出してしまう話題や、おやおやと同情してしまうお話、へ～と感心するためになる話などが次々と展開されます。

初めに野鳥の会石川の中村代表、白川副代表など幹事メンバーが続々出演してくれてハードルを低くしてくれたので声もかけやすくなっています。会員だけでなく、探鳥会で「私た



▲ラジオ番組の放送（向かって左側が清田さん、右側が中村代表）

ちも出演できますか？」と声をかけてくださった未入会のOLさん二人組にも喜んでご出演頂きました。ビギナーさんなりの新鮮なご意見が聞かれて素敵な回になりました。

<この番組で話していただいた様々な野鳥とのエピソード>

「ようやく念願の目的地に着いていざ鳥見、と思ったら双眼鏡ケースの中が空っぽで、ぼーっと遠くで飛んでいるであろう鳥を2時間眺めて帰ってきた。とても疲れた。」

「舂倉島で珍鳥を思う存分観察出来て堪能して帰ろうと思ったら天気が荒れて次の日も、その次の日も船が来ず、とうとう7日間も島に缶詰めになった、毎日珍鳥を見ていたら自分の中では珍鳥じゃなくなった。」

「山に登ってひとしきり鳥見を終え谷川の清流で淹れるコーヒーを味わいながら聞く鳥のさえずりの何と素晴らしいことか、何の鳥だったかすら覚えていない。」

「夕闇の中、畑にいた初めて見る真っ黒い鳥がこちらを振り向いた時、戦慄さえ感じた。すぐさま帰って調べたらマミシロという鳥だった。怖かった～。忘れられない。」

「万葉集に鳥を歌った歌が数多くあって「あじ

（トモエガモか）「きじ」「たず（鶴）」など 22 種の鳥が歌われています。この内『うぐいす』は 45 首詠まれているのですが一つ一つ検証していくと、あれはどれも『メジロ』を『ウグイス』と見間違えているようです。大体『めじろ』が万葉集に出てこないのはおかしいです。「めじろ」という言葉は、室町時代から使われ始めたようです。」

「アネハツル見たさにモンゴルまで行って来ました。辛く苦しい思いをしてヒマラヤ山脈を越えモンゴルの平原で盛んにディスプレイしている彼らを目にした時とても感動しました。」
「たまたま石川動物園で「トキ」のお世話をするようになりました。毎日毎日非常に緊張しました。」

などなど書ききれないほど様々なエピソードが語られています。また、普段、探鳥会で聞かれないような仲間のその人自身の物語にも触れることが有ります。

この「野鳥が好き歌が好き」はまだ 1 年もたっていない番組ですが、嬉しいことに徐々にリスナーさんからのメール、お便りが届くようになりました。お便りを頂くたびに皆さんはこんな疑問を持っていらっしゃるのだな、と勉強させられます。特に多い質問をならべるとこんな感じです。

- * 月例探鳥会についての問い合わせ（インターネット環境にない方からの問い合わせが多い）
- * 全くの素人だが参加できますか？服装は？
- * 日本野鳥の会の会費について。
- * 双眼鏡を買うときにはどんな注意をしたらいいですか？
- * よく見たり聞いたりする身近な鳥の鳴き声を聞かせて欲しい、その声の鳥の名前は何か言いますか？

* ポスターで「小鳥を拾わないで」とありましたが何故ですか？

* 土砂降りの雨、台風などが通過する時、鳥たちはどうしていますか？

これからも一般の方に日本野鳥の会のことを少しでも知っていただくように、野鳥に興味を持っていただけるように、いろいろな角度から情報がしっかり伝わるように努力していこうと思います。

この報告をお読みいただいている読者の皆さんもこの放送を聞くことができます。以下の二つの方法でお試ください。

① インターネット環境で

株式会社えふえむ・エヌ・ワンのホームページ (<https://www.fmn1.jp/>) にアクセスして「ON AIR 放送中！」の下 PC で聴く！→ 76.3 音声を聴くをクリックで聴くことができます。

② スマートフォンの場合

無料アプリ「ListenRadio(リッスンラジオ)」をインストールして北信越地域から FM N1 を選びます。

たくさんの愛鳥家の方々に聞いていただくと嬉しいです。

どうぞよろしく願いいたします。

ラジオ番組「野鳥が好き、歌が好き」について

- 2019 年 4 月 6 日放送開始
- ラジオ局：株式会社 えふえむ・エヌ・ワン
- 周波数：FM 76.3Mhz
- 放送時間：毎週土曜日午前 9 時～9 時 30 分
(再放送は同日午後 7 時 30 分～8 時)

(日本野鳥の会石川/清田良一)

◆長野支部の探鳥会がクマの出没により中止に

近年、探鳥会の開催地で、クマやイノシシが出没するケースが増え、探鳥会の安全対策に悩んでいるという声を聞くようになってきました。この度、長野支部から、8 月 31 日の戸隠森林植物園での探鳥会について、クマの出没により中止したと連絡をいただきましたので、以下に共有します。これを機会に、同様の事例やお困りのリスクがありましたら、普及室 (tancho-staff@wbsj.org) までお知らせください。(普及室)

長野支部の戸隠植物園探鳥会は、出現する鳥も多く、参加者が 40 人を超えることもある人

気の探鳥会です。通常、案内人 2 名で行っており、参加者が多い時には支部の役員も案内人の

お手伝いをしています。

戸隠森林植物園では、今年度に入りクマの目撃情報が相次いでいました。また8月31日の探鳥会に向けた下見では、案内人が、小グマが鳴きながら木道を歩いているのを確認しています。そのため、探鳥会でのクマとの遭遇の可能性が極めて高いと判断し、参加者の安全確保の観点で、役員、案内人で中止を決定しました。

今後の戸隠探鳥会でも、参加者の安全確保という観点から、情報を収集し、中止、コースの変更を含め対応します。



▲木道を歩く小グマ（撮影：泉澄雄さん）

（長野支部支部長／藤田伸二）

◆車いす探鳥会のための研修を実施しました

近年、全国的に、障がい者向け探鳥会が開催されるようになり、また、車いす利用者が定例探鳥会へ参加される機会も増えているようです。財団事務局でも、この冬、車いす利用者を対象とした探鳥会を開催する準備を進めております。

そこで、財団職員も車いす参加者への対応方法を学びたいと、8月19日（月）に、当会西五反田事務所（東京都品川区）で、職員向けの研修を実施しました。

■研修会の概要

講師は、日頃から車いすでバードウォッチングを楽しまれている、宮野谷義傑（みやのや・よしひで）さんです。宮野谷さんは、幼いころから車いすで生活されています。「普段図鑑で見ている鳥が、目の前にいる喜びと感動を、多くの方にしてほしい」と、自ら探鳥会を主催し、日本野鳥の会京都支部のバリアフリー探鳥会のサポートもされている方です。

研修は、屋外実習とレクチャーあわせて2時間ほどのプログラムでした。前半の実習では、車いすに乗る人と介助する人を交代しながら、道路や公園を移動しました。次に、室内で、車いす利用者を案内するときの注意点や、介助のポイントなどをレクチャーしていただきました。



▲講師の宮野谷さん（左）

■まずは、車いすを体験

車いすに乗って、まず、驚いたことは、一見平らに見える道路が傾斜していることでした。車いすで進んでいると、まっすぐ進んでいるつもりなのに、路肩へ引き寄せられるように曲がってしまいます。歩くのと車いすとは、こんなに違うものかと、最初から大きな衝撃を受けました。

また、橋の上を通った時も予想外のことがありました。車いすに乗ったまま橋の上から水面を見ようとすると、目の前が欄干に遮られて何も見えません。探鳥会で鳥を探すときには、視線の高さにも配慮が必要と思いました。

さらに、芝生の上やスロープ、横断歩道などを車いすで移動してみて、わずかな段差や傾斜が走行に影響すること、視界の狭さ、地面の素材の違いで操作性が格段に変わることなど、新しい発見ばかりでした。

■介助のポイントはコミュニケーション

車いすで困ったとき、頼りになるのは介助してくれる方の存在ということもよくわかりました。少しサポートしてもらっただけで、一人では乗り越えられない段差や坂道を安心して通行することができました。また、介助する側も、段差の乗り越え方や、芝生ではキャスター（前の小さなタイヤ）をあげるようにするとスムー

ズに進むことなどを教えてもらいました。

介助のポイントとして印象に残ったことは、「コミュニケーション」が大切であるということ。何も言わずに突然車いすを押されたり、持ち上げられたりすることは、乗っている人にとっては、想像以上の恐怖でした。「持ち上げますよ」の一言があるだけで、とても安心できることを実感しました。

一見何も無い道に見えても、車いすでは進みにくい場所もあります。介助した方が良いのかどうか、普段、車いすを利用していない人には気づきにくいので、ためらわずに声をかけてみるのが大切であると、あらためてわかりました。

■まとめ

今回の研修で、車いすの操作方法や段差での介助の仕方などの具体的な手法を知り、そして、少しではありますが、利用者の気持ちを、知る

ことができたように思います。

宮野谷さんから、体が不自由な方にとって、野外で自然観察をすることは、まだまだ抵抗があるというお話もありました。今回の研修を活かし、障がいのある方も一緒にバードウォッチングを楽しむ機会を増やしていければと思います。



▲芝生では、前を上げるように押すと進みやすい

(普及室／江面康子)

◆仙台で「探鳥会のためのリスクマネジメント研修」を開催

7月27日(土)に、宮城県仙台市で、「探鳥会のためのリスクマネジメント研修」を開催しましたので、ご報告いたします。財団主催のリスクマネジメント研修としては、昨年10月の大阪での開催に続き、2回目です。(参照：探鳥会スタッフ通信2018年11月号
<http://www.wbsj.org/info/shibu/tancho/staff201811.pdf>)

■開催概要

- 【日時】2019年7月27日(土)
10時00分～17時00分
- 【会場】スタンダード会議室
(宮城県仙台市)
- 【参加者】東北ブロック所属支部の探鳥会リーダー19名
(宮城県支部17名、山形県支部2名)
- 【講師】財団普及室 箱田、堀本

■当日の流れと内容

- 9:30 受付開始
- 10:00 開会・オリエンテーション

10:15～11:00 講義

『初心者向けバードウォッチング』の仕組みと概要

前半は、『初心者向けバードウォッチング』の開催マニュアルに沿って、実施状況や開催ポイントについて、お話ししました。

後半は、宮城県支部と山形県支部の過去10年間の会員動向(会員数、入会者数、退会者数)をグラフで確認し、各支部での取り組みについて意見交換をしました。また、『初心者向けバードウォッチング』を実施する他支部と比較をしながら、今後工夫できる点などについても考えました。

11:10～11:45 実習

リーダーと参加者のコミュニケーション

コミュニケーションは、『初心者向けバードウォッチング』の参加者満足度を上げるためにも、リスクマネジメントの観点からも大切です。

前半は、コミュニケーションがうまくいかなかったときの事例を紹介し、どこがつまづく要因となったのか、どんな工夫ができたかをお話ししました。後半は、図形を描く実技を通して、コミュニケーションの難しさを実感しました。

会場からは、「受け手側に立った説明の重要性を知った」「会話をするように心がけたい」などの感想をいただきました。

13:00~14:30 講義

探鳥会のリスクマネジメント

探鳥会のリスクマネジメントについて、概要、指導者の法的責任、手順(リスクの発見、評価、対処、フォローアップ)を解説しました。

14:40~16:30 実習

リスクを評価してみよう

当初近くの公園を歩き、リスク要因を発見する予定でしたが、暑さが厳しかったため、室内での実習としました。グループごとに、これまでに体験した事故やヒヤリハットの事例を出し合い、それらを「事故が起こる可能性」と「起きた場合のダメージの大きさ」という2軸で評価し、どのような対処ができるか考えました。「装備の不備」「子ども」などに加え、「地震などの災害」もリスク要因にあがっていました。

16:30~ 個人情報保護ほかについて
全体質疑

17:00 閉会



▲グループワークの様子

■まとめ

長時間にわたる研修でしたが、質疑も充実し、「あっという間に感じた」という感想もいただきました。リスクマネジメントについては、講義の後で実習があったことで、より取り組みのイメージが付きやすくなっていました。

次の財団主催の研修会は11月に福岡で開催する予定です。多くの方にご参加いただけることを願っています。

(普及室/堀本理華)

◆日本野鳥の会埼玉 2019年度リーダー研修

9月1日(日)に、日本野鳥の会埼玉の第37回リーダー研修会が開催されました。普及室で探鳥会リスクマネジメントの講演を担当しましたので、研修会全体の様子と合わせてご紹介します。

日本野鳥の会埼玉では、1985年から毎年リーダー研修会を開催しています。今回は、長野普及部長が探鳥会スタッフ通信で記事を目にしたのがきっかけで、探鳥会リスクマネジメントに関する講演の時間が設けられました。当日は、新規に埼玉のリーダーとなる3名を含む34名が参加しました。

■開催概要

【日時】2019年9月1日(日)
9時30分~16時30分

【会場】埼玉県自然学習センター
(埼玉県北本市)

【参加者】34名(役員・リーダー31名、新規リーダー3名)

■当日の流れと内容

9:30 開会、代表挨拶、
新規リーダー自己紹介

9:40-10:00

探鳥会のすすめ方・リーダーの役割等

長野普及部長より、リーダーとしての下見の注意点や当日の役割について説明がありました。

10:15-12:00

模擬探鳥会(野外研修)

3グループに分かれ、それぞれのグループで新規リーダーを含む数名がリーダー役となり模擬探鳥会を実施しました。

私の加わったグループでは、鳥だけでなく、チョウやクモ(トリノフンダマシ、オナ

ガグモ)、ハイロチョッキリの落としたドン
グリなど、虫や植物も観察しました。



▲説明の様子

12:00-13:00 昼食

13:00-13:50

グループディスカッション

模擬探鳥会を終えて、気付きを共有しました。
「夏場の鳥のいない時期の探鳥会であったが、
鳥以外にも詳しい方のおかげで楽しかった」
「夏場の下見では鳥以外についても調べてお
きたい」等の感想がありました。

また探鳥会の途中スズメバチの巣があり、し
ばらく留まってハチを観察するシーンがあり
ましたが、その件については、「安全管理の視点
からは、観察に時間を取らずに通り過ぎる方が
よい」との意見がありました。そのほか集団から
遅れがちな参加者への対応について、「道に
迷う可能性もあるので必ず誘導すべき」「探鳥
会が始まる前に、リーダーの指示に従ってほ
しいことや、いつまでにどこへ行くスケジュー
ルかを伝えておくと参加者が合わせてくれる
かもしれない」等の意見が挙がりました。

13:50-15:10

講演「探鳥会でのリスクマネジメント」

(講師：普及室/堀本理華)

パワーポイントを使って、探鳥会のリスク
マネジメントについて、概要、指導者の法的
責任、手順(リスクの発見、評価、対処、フ
ォローアップ)を解説しました。

会場からは質疑のほか、「事故が起きた際、
リーダーの過失(参加者への注意義務を怠る
こと)が認められると法的責任を問われるこ
とがある。またそれだけでなく、リーダーの
精神的負担も大きいことを意識してほしい。」
「リスクの発見にあたっては、想像力を十分

に発揮して取り組むことが大切。」との呼びか
けもいただきました。

15:10-15:55

ビギナー向け探鳥会の運営

石塚幹事より、埼玉の会員数の動向を交え
ながら、今年度のビギナー探鳥会について説
明がありました。開催予定や、目的、普段の
探鳥会との違い・留意点を確認しました。

15:55-16:20 埼玉の概況、各部紹介

16:20-16:30

まとめ、新規リーダーへの腕章貸与、閉会

17:00-20:00 懇親会



▲山部代表から新規リーダーへの腕章貸与。右
から山部代表、新規リーダー3名、堀本

■まとめ

埼玉の探鳥会では、急な体調不良に備え、
参加者に緊急連絡カードの携帯をお願いして
おり、また昨年からは、熱中症に対して暑さ
指数が危険となった場合には探鳥会を中止す
る等の対策をしています。今回の模擬探鳥会
でも、リーダー役の方が、飲み物を持って
いない方には、自動販売機で購入を促し、開
始前だけでなく道中においても、リスクがあ
るたびに段差や他の公園利用者への注意を促
す様子が見られました。普段から安全管理を
意識して活動されていることが伝わってき
ました。

来年は、リスクマネジメントに関して実際
に研修参加者に考えてもらうワークショップ
を企画したいとお話いただきました。事
故のない探鳥会に向けてより一層注意がさ
れていくことと思います。

【参考】
緊急連絡カード http://www.wbsj-saitama.org/ks_kinkyu.html

熱中症対策ガイドライン
http://wbsj-saitama.org/whatsnew/info_20190623.html

(普及室／堀本理華)

◆探鳥会保険集計結果（2019年7月分）

7月は71支部からご報告をいただき、計166回の探鳥会が開催され、のべ3,259人が参加されました。

表2. 7月の探鳥会保険集計結果（2019年8月15日現在）

支部	開催回数 (回)	参加者数		スタッフ数 (人)	合計人数 (人)
		会員(人)	非会員(人)		
オホーツク支部	2	32	23	2	57
根室支部	2	6	11	5	22
釧路支部	2	17	20	3	40
十勝支部	-	-	-	-	-
旭川支部	0	0	0	0	0
滝川支部	1	11	3	2	16
道北支部	0	0	0	0	0
江別支部	-	-	-	-	-
札幌支部	2	86	26	6	118
小樽支部	2	2	10	2	14
苫小牧支部	1	4	4	2	10
室蘭支部	-	-	-	-	-
道南桧山	-	-	-	-	-
青森県支部	-	-	-	-	-
弘前支部	2	20	3	2	25
秋田県支部	4	38	3	4	45
山形県支部	1	4	0	1	5
宮古支部	-	-	-	-	-
もりおか	1	16	5	5	26
北上支部	1	5	0	1	6
宮城県支部	3	52	14	7	73
ふくしま	2	30	2	4	36
郡山支部	2	23	5	5	33
白河支部	1	0	0	5	5
会津支部	2	12	1	2	15
奥会津連合	-	-	-	-	-
いわき支部	0	0	0	0	0
福島県相双支部	-	-	-	-	-
南相馬	-	-	-	-	-
茨城県	4	33	17	8	58
栃木県支部	5	63	21	14	98
群馬	6	33	17	18	68
吾妻	1	24	0	2	26
埼玉	4	63	14	20	97
千葉県	6	44	22	24	90
東京	11	196	27	48	271
奥多摩支部	4	71	6	15	92
神奈川支部	6	76	28	23	127
新潟県	1	4	5	2	11
佐渡支部	-	-	-	-	-

富山	2	32	11	4	47
石川	1	16	6	3	25
福井県	0	0	0	0	0
長野支部	0	0	0	0	0
軽井沢支部	1	6	5	1	12
諏訪支部	1	2	5	2	9
木曾支部	-	-	-	-	-
伊那谷支部	1	2	2	2	6
甲府支部	2	29	2	4	35
富士山麓支部	0	0	0	0	0
東富士	-	-	-	-	-
沼津支部	1	11	0	2	13
南富士支部	1	11	0	1	12
南伊豆	0	0	0	0	0
静岡支部	1	5	3	3	11
遠江	2	25	2	7	34
愛知県支部	7	70	48	21	139
岐阜	-	-	-	-	-
三重	0	0	0	0	0
奈良支部	3	66	11	6	83
和歌山県支部	0	0	0	0	0
滋賀	3	20	19	6	45
京都支部	7	143	22	20	185
大阪支部	17	186	44	75	305
ひょうご	1	18	18	5	41
NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	2	23	22	2	47
島根県支部	1	9	1	1	11
岡山県支部	3	52	112	18	182
広島県支部	2	26	9	4	39
山口県支部	2	29	7	2	38
香川県支部	2	32	2	2	36
徳島県支部	6	77	10	6	93
高知支部	-	-	-	-	-
愛媛	3	32	16	7	55
北九州支部	1	12	0	1	13
福岡支部	3	31	7	5	43
筑豊支部	4	48	5	5	58
筑後支部	-	-	-	-	-
佐賀県支部	1	11	0	1	12
長崎県支部	-	-	-	-	-
熊本県支部	1	18	16	3	37
大分県支部	2	28	16	4	48
宮崎県支部	2	32	5	2	39
鹿児島	1	15	3	4	22
やんばる支部	-	-	-	-	-
石垣島支部	-	-	-	-	-
西表支部	0	0	0	0	0
全国	166	2,082	716	461	3,259

備考：-は保険の申請がなかったことを示しています。

(普及室)

◆普及室からのお知らせ

■新入会キャンペーン実施中。ぜひご活用ください！■

ただいま、新規にご入会いただいた方に当会オリジナルカレンダーをプレゼントしています。支部型会員（赤い鳥会員）含め、全ての会員種別（家族会員除く）が対象です。昨年のキャンペーン期間中（9か月間）は、前年の同期間と比べて、入会者が100人増加したとの実績もあります。探鳥会での入会促進に、入会に迷っている方への最後の一押しに、ぜひご活用ください！

■キャンペーン概要

【プレゼント内容】

「しあわせことりカレンダー2020」 1部

かわいい野鳥の写真を集めた小さな壁掛けのカレンダー。表紙サイズ約15×15cm。

※カレンダーは、新入会の方へ財団から直接郵送します。

【期間】 2019年12月31日までに入会申し込みをされた方

【対象会員種別】 家族会員を除く全ての会員種別

■チラシをご活用ください！

キャンペーンのチラシがありますので、探鳥会などで未入会の方にぜひお配りください。

チラシのご請求は、以下までお気軽にどうぞ。

＜チラシのご請求・お問合せ＞

（公財）日本野鳥の会 会員室

電話：03-5436-2630（平日10～17時）

メール：shiryuu@wbsj.org



▲しあわせことりカレンダー 表紙



▲キャンペーンのチラシ

■秋期「初心者向けバードウォッチング」を広報します■

2019年度秋期（10月～12月）の「初心者向けバードウォッチング」は、28支部とともに54回開催します。実施概要をお寄せいただいた支部のみならず、ありがとうございました。これらの「初心者向けバードウォッチング」に関して、以下の広報を実施しますのでお知らせいたします。

（1）「初心者向けバードウォッチング 2019秋」送付
9月下旬に、パンフレット「初心者向けバードウォッチング 2019秋」を全国の約40,000名（小冊子申込者等）に送付します。

（2）一斉メール送信
2019年9月下旬に全国約70,000名（小冊子申込者等）に送信予定です。

(3) 財団 HP 上の特設ページ更新
財団 HP 内の特設ページ「初心者向けバードウォッチングのご案内」に、秋期の初心者向けバードウォッチングの情報を掲載します。

<https://www.wbsj.org/activity/event/beginners-event/>

※秋期開催分は 9 月下旬に公開予定です

たくさんの方が参加されることを願っております。



▲「初心者向けバードウォッチング 2019 秋」表紙

■冬期開催分「初心者向けバードウォッチング」実施概要をお送りください■

「初心者向けバードウォッチング」の冬期（2020 年 1 月～3 月）開催分の実施概要を募集しております。

2019 年 8 月 9 日付で支部事務局あてに送付しました資料をご覧ください、冬期に開催さ

れる支部のみなさまは、2019 年 10 月 15 日（火）までに、普及室 普及教育グループ（tancho-staff@wbsj.org）へ実施概要をお送りください。

◆今月の購読者数

探鳥会スタッフ通信 9月号の電子メール版の購読者数は、先月から1名増えて856名です。各支部の購読者数は、「財団からの配信者数」と「支部からの転送による配信者数」の合計です。

表3. 探鳥会スタッフ通信 9月号電子メール版の購読者数 (2019年9月17日現在)

支部	購読者数	支部	購読者数
オホーツク支部	6	軽井沢支部	1
根室支部	1	諏訪	7
釧路支部	3	木曾支部	1
十勝支部	1	伊那谷支部	1
旭川支部	3	甲府支部	4
滝川支部	1	富士山麓支部	0
道北支部	1	東富士	0
江別支部	0	沼津支部	3
札幌支部	5	南富士支部	3
小樽支部	3	南伊豆	2
苫小牧支部	2	静岡支部	2
室蘭支部	5	遠江	11
道南桧山	1	愛知県支部	45
青森県支部	1	岐阜	6
弘前支部	5	三重	19
秋田県支部	4	奈良支部	3
山形県支部	4	和歌山県支部	5
宮古支部	1	滋賀	20
もりおか	4	京都支部	31
北上支部	2	大阪支部	26
宮城県支部	39	ひょうご	14
ふくしま	6	NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	10
郡山支部	1	島根県支部	13
白河支部	2	岡山県支部	28
会津支部	2	広島県支部	9
奥会津連合	0	山口県支部	16
いわき支部	1	香川県支部	6
福島県相双支部	0	徳島県支部	6
南相馬	0	高知支部	1
茨城県	22	愛媛	16
栃木県支部	59	北九州	11
群馬	24	福岡支部	12
吾妻	1	筑豊支部	21
埼玉	38	筑後支部	6
千葉県	24	佐賀県支部	5
東京	69	長崎県支部	1
奥多摩支部	48	熊本県支部	13
神奈川支部	28	大分県支部	4
新潟県	2	宮崎県支部	4
佐渡支部	1	鹿児島	3
富山	2	やんばる支部	0
石川	30	石垣島支部	1
福井県	12	西表支部	1
長野支部	1	合計	856

(普及室)

◆探鳥会スタッフ通信（電子メール版）の無料配信について

探鳥会スタッフ通信は、支部の探鳥会スタッフならどなたでも受信できます。（無料です）ご希望の方は、「探鳥会スタッフ通信希望」と明記のうえ、①支部名 ②担当している探鳥会名 ③お名前 ④ご住所 ⑤電話番号 ⑥メールアドレス（パソコンやスマートフォンのア

ドレス）を記入し、tancho-staff@wbsj.orgへお申し込みください。バックナンバーとともにメール版を送信いたします。

配信を希望されない、メールアドレスの変更などについても、tancho-staff@wbsj.orgまでお知らせください。

★編集後記

段々と涼しくなっていましたね。干潟でたくさんのシギやチドリを見るにつけ「秋だなあ」と感じる今日この頃です。みなさまはいかがお過ごしでしょうか？

今回は、連載中の神奈川支部小松様のほか、石川の清田様、長野支部の藤田様から原稿をお寄せいただきました。私は一足先に清田様のラジオ番組を聴かせていただいたのですが、和やかな野鳥のお話や音楽が聴けて、とても素敵なひと時を過ごすことができました。パソコンから簡単に聴くことができましたよ。

（普及室／井上奈津美）

日本野鳥の会

探鳥会スタッフ通信 第78号

◆発行

(公財)日本野鳥の会 2019年9月20日

◆担当

普及室 普及教育グループ

〒141-0031

東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル

TEL : 03-5436-2622

FAX : 03-5436-2635

E-mail : tancho-staff@wbsj.org
